

令和5年度（第62回）農林水産祭むらづくり部門受賞団体の概要

【農林水産大臣賞受賞団体（代表者）】

● ひやくしやうひやつびん 百姓百品グループ えひめけんせいよし のむらちやう〔愛媛県西予市野村町〕（会長 わけ かずお 和氣 数男）

（1）むらづくりの背景・動機

西予市野村地区は、市東部の中山間地域で、自然豊かな地域であるが、近年高齢化や人口減少が進み、耕作放棄地が増加している。平成4年に村おこしとして、直売所を開始し、好調であったことから農家140人で組合を立ち上げ、平成18年には「百姓百品株式会社」として法人化した。その後、平成20年には地域で増え続ける耕作放棄地を解消するため、青ネギを生産販売する農業生産法人「株式会社百姓百品村」を、平成25年には農福連携事業にも取り組むため、就労支援事業所「株式会社野村福祉園」を立ち上げた。

（2）むらづくりの内容

① 生産面における取組状況

百姓百品(株)は、地区中心部にある本店と西予市内1店舗、松山市内4店舗のインショップで野菜や加工品を販売しており、零細農家の販売面における貴重な受け皿となっている。加えて、地域農業の維持・活性化のほか、出荷者の大半を占める高齢農家の生きがいづくりや、郷土料理等食文化の伝承・PRにもつながっている。

地区内の200か所にも及ぶ耕作放棄地を活用した(株)百姓百品村の青ネギ栽培は日平均約1tを周年生産しており、その取組みは、耕作放棄地及び農地継承対策として期待されている。

また、(株)百姓百品村で生産した青ネギの収穫・出荷作業を(株)野村福祉園と連携して行う活動は農福連携のモデルとして他事業所からも注目されている。

② 生活改善の取組状況

百姓百品(株)は、西日本豪雨で被災した際にも、いち早く活動を再開していく様子は復興のシンボルとして、地域住民を勇気づけた。本店は住民の交流拠点となっており、地元イベントにも積極的に参加している。また、(株)百姓百品村では、地元畜産農家の堆肥を利用した地域内循環・環境負荷軽減にも取り組んでいる。さらに、(株)野村福祉園の利用者は地域の平均を大きく上回る工賃を得ており、地域の障がい者の経済的自立にも貢献している。

グループでは、積極的に20、30歳代の若手（約6割が市外出身）を受け入れ、新しい感覚を持ち込むことで地域の活性化につながっている。また、グループは仕事と家庭の両立ができるよう配慮されており、令和4年に百姓百品(株)、令和5年に(株)野村福祉園の代表取締役は30代の女性が就任するなど子育て世帯の女性が活躍できる環境が整っている。